

徳島市不動中学校総括評価表

自己評価		学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		
人権教育を実践するため、目的意識・自尊感情の育成に努める。	(全校レベル) ① 生徒たちの目的意識・自尊感情を育成する。 ② 細やかな生徒指導とともに、保護者との連携を図る。	評価指数	評価指数の達成度	総合評定 (評定)	① 先生方は子どもの事を考えて教えてくれている。 ② 挨拶の声も大きくなってきており、自分から積極的に声をかけられるようになってきた。
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		① 学校生活は充実していると考える生徒の割合が全体の70%以上いる。(アンケート) ② 困ったとき、相談にのってくれる先生がいると考える生徒が、70%以上いる。(アンケート)	① アンケートより、81%の生徒が「学校生活は充実している」と答えた。 ② 年度末アンケートより、「困ったときに相談できる先生がいる」と答えた生徒の割合が66%であり、昨年度より減少した。	B	
		①-1 学校行事等で体験的活動を通じて、集団の中で生徒自身が自ら考え行動する機会をつくる。 ①-2 挨拶運動を推進し、コミュニケーションを高められる取り組みを推進する。 ② 教育相談体制を整え、いじめ等について相談しやすい環境をつくる。	①-1 学校行事等において、全町大運動会や文化祭を通じて、生徒たちが活躍できる場面を作ることができた。 ①-2 人権集会は、昨年同様、新型コロナウイルス感染症予防のため縮小しての実施となった。しかし、アンケートより、「地域や友達、学校の先生など周りの人たちに挨拶が出来る」と答えた生徒の割合は93%と増えており、自主的に取り組む態度の育成に繋がっている。 ② スクールカウンセラーとの連携をより密にすることができた。また、全生徒を対象にした「心の健康相談」を2回通り実施し、個々の内面を捉える機会を設けた。	(所見) 学校・地域行事が延期や中止となり、生徒会を中心として企画・運営に携わり、生徒たちが自分の役割を果たす機会が減った。数少ない行事の中で、工夫して活躍できる場をつくれた。	
確かな学力の育成に向けて主体的・対話的な深い学びを実現する。	① 主体的・対話的な深い学びを実現するために授業づくりや授業改善をめざす。 ② 基礎的・基本的な知識・技能の定着や家庭学習習慣の確立をめざす。	評価指標	評価指数の達成度	(評定)	① 少ない人数ながらも、中学生は落ち着いて学校生活が送れている。勉強に対しても一生懸命に取り組んでいる。 ② PUTをはじめ、熱心に指導してくれている。
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		①-1 関心や意欲、目標を持って授業に参加している生徒の割合が70%以上である。(アンケート) ①-2 週休日や長期休業中の家庭学習は大切であると答える生徒の割合が80%以上である。(アンケート) ② 得意な教科があり、苦手教科の克服に取り組んでいる生徒が70%以上いる。(アンケート)	①-1 アンケートより「関心や意欲、目標を持って授業に参加しているのが楽しい」と答えた生徒の割合が65%で減少傾向にあり、さらなる授業の工夫や意識の改革が必要である。 ①-2 アンケートより、「週休日や長期休業中の家庭学習は大切である」と答えた生徒の割合が96%であり、意識の変容が見られた。 ② アンケートより、「苦手な教科は分かるように努力している」と答えた生徒の割合が84%であり、苦手な教科の克服に向け、家庭学習に根気強く取り組んでいる。	C	
		①-1 校内研修の充実等、わかる授業をめざす取組を推進する。 ①-2 「宿題しま表」の活用により、家庭学習の定着と充実を図る。 ②-1 学級図書を定期的に入れ替え、読書活動の啓発を図る。 ②-2 モジュール学習等「朝の学習の時間」を活用し、基礎学力の育成を目指す。	①-1 アンケートより、100%の教員が「学力向上に向け、教材研究等よくわかる楽しい授業の実践に努めている」と答えており、生徒へのきめ細やかな指導にも繋がっている。 ①-2 各教科担任が、「宿題しま表」を活用し、家庭学習の計画的な実践に向け、学習量の過重負担を考えながら取り組めた。 ②-1 学級文庫を定期的に入れ替えたり、朝の読書週間を実施したが、「朝の読書は好きだ」と答えた生徒は58%に留まり、読書の啓発が推進できなかった。 ②-2 生徒アンケートからも84%の生徒が「得意な教科があり、苦手な教科の克服に努力している」と答えている。	(所見) 教員は生徒にわかる授業展開をめざし、授業改善・充実をめざした取り組みが推進されている。 今年度は、4教科(国・数・理・英)でT・Tの体制を作り、きめ細やかな指導を行った。また、5教科(国・社・数・理・英)のモジュール学習を各学期に実践し、生徒も基礎・基本の大切さを感じながら取り組んでいた。	
地域の教育力を活かすとともに、家庭との連携を密にし、地域・保護者から信頼される学校協力体制づくりに努める。	① 地域の各種団体と積極的に交流し、日頃の教育活動や学校行事に活かす。 ② 地域の人材と教育力を活用した総合的な学習の時間の充実を図る。	評価指標	評価指数の達成度	(評定)	① 新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、これまでのような地域行事が再開されることを願っている。 ② 行事の中止がこのまま続けば、伝統や文化の継承が危ぶまれる。 ③ 今年度も運動会を学園関係者だけで行ったのは、良かったと思う。
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		① 不動学園や地域と連携することができたと考える教職員が90%以上いる。(アンケート) ② 学校での学習や地域の行事への参加を通じて、地域の人からいろいろなことを教えていただいたり、いっしょに活動ができたと考えている生徒が90%以上いる。(アンケート)	① コロナ禍で、地域行事が中止になったが、アンケートでは100%の教職員が「不動学園や地域と連携できた」と答えた。 ② 生徒に対しても同様に「地域の行事に参加できている」と答えた生徒の割合が81%と増加傾向にあり、いろいろな制限がある中、工夫できたと感じている。	A	
		① 学校として、地域の各種行事に準備段階から関わり、地域の連携を図る。 ② 町内の事業所に「職場体験」の実施をお願いする等、総合的な学習の時間において地域と連携を図る。	① 地域行事を行うことができず、十分に連携を図ることができなかった。 ② 今年度、「職場体験」は実施できなかったが、「職場アンケート」の形で、地域の仕事を知ることができた。	(所見) 地域行事が中止になる中、工夫して連携を図ることはできた。	
教職員の働き方改革を推進し、ワークライフバランス確立に努める。	① 教職員がやりがいを持って働くとともにワークライフバランスを保つ。 ② 保護者や地域の理解と協力を得る。	評価指標	評価指数の達成度	(評定)	① 教職員の働き方改革は少しずつ進んでいるようであるが十分とは思えない。取り組みの継続が必要。
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		① 「やりがいを持って働くことができた」「年休等が取りやすい」がともに80%以上いる。 ② 「保護者や地域の理解がすすんでいる」と感じる教職員が70%以上いる。	① 90%以上の教職員が、それぞれに対して肯定的に回答しており、ワークライフバランスを保つことができた。 ② 「すすんでいる」が43%であり、昨年度より少し増加したが、低水準であった。	B	
				(所見) 広報活動が不十分であった。	

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった